2024 年度 「まちづくり演習第１後半（持続可能な都市圏計画）」

持続可能な柏都市圏のまちづくり提案（案）(2024 年 10 月現在)

１．趣旨

本演習の対象とする柏都市圏の中心都市である、常住人口 43.6 万人（2024 年）の柏市は、住宅、商業、業務、工業、学術など多様な機能を有している。同市は、多くの就業者が東京へ通勤する住宅都市、周辺都市から休日を中心に人が集まる商業拠点として発展し、現在でも人口が増加している。また東京都心に集中する業務機能を分担する業務核都市としての期待も続く一方、生産緑地の保全やカシニワ制度の活用等による緑豊かな環境都市として、また複数の研究機関や２つのアーバンデザインセンターによるスマートシティとしての発展の可能性も大きい。さらに周辺都市（隣接都市は松戸市、我孫子市、鎌ケ谷市、野田市、流山市、印西市、白井市、取手市、守谷市）や筑波研究学園都市、成田空港などとの連携も期待できる。

他方、将来を見据えると、柏都市圏は同時に様々なリスクを抱えている。交通アクセスが悪い一部の郊外団地や農村地区では高齢化が進み、今後の人口減少の深刻化が懸念され、住宅開発が進む地区との格差が大きくなっている。2005 年に開業したつくばエクスプレスの各駅前で公共交通指向型開発が進む一方、柏市の旧来からの中心である JR 柏駅前では、大規模商業施設が閉鎖されたことが象徴的に示すように、商業集積は縮小傾向にあり、中心市街地の衰退が危惧されている。近年の災害の激甚化により、利根川の流域に近いエリアを中心に大規模災害のリスクも抱えている。気候変動とヒートアイランドに起因する都市の高温化によるリスクも無視できない。

本演習では、柏都市圏を対象に、多くの機能を活かし、将来想定される様々なリスクに適応して、持続可能な都市圏を形成・発展させていくためのグランドデザイン及びまちづくり提案を検討することとする。

なお「柏都市圏」の地理的範囲については、柏市全域を含み、かつ持続可能な都市圏の形成のために最も適した範囲を、各グループで設定することとする。

２．演習で行う検討作業

(1)柏市及び周辺自治体の都市政策・まちづくりのレビュー、現状の理解

(2)都市圏を取り巻く様々な地域資源とリスクとそれらが持続可能性に与える影響の理解

(3)(2)で取り上げた地域資源を活かし、種々のリスクに適応するための論点の整理と方針の検討

(4)その方針に基づく、都市圏・自治体・中心市街地等の部分の物的・社会的環境形成・再生のあり方（まちづくり提案）の検討

・土地利用、都市デザイン、住宅、防災、交通、緑地・環境の各分野について検討すること

・複数の自治体で構成させる都市圏の広域調整・広域連携のあり方についても検討すること

→以上の内容を 20 分のプレゼンテーションとしてまとめる。プレゼンテーションは、都市計画・まちづくり分野の専門家（＝演習受講者）が自治体の首長や執行部に対して行うものと想定し、現行の都市政策・まちづくりをアップデートする論理的な道筋を示すことを目標とする。

３．基本的な進め方

・グループ作業とする。成績評価はグループとしての成果物と、同一グループ内学生間の相互評価（参加状況・貢献に関する評価、方法は後日通知）に基づく。

・14 号館の教室（基本的に 141 号室）での対面を原則とする。ただし、グループ作業については、班員の了解が得られれば、適宜 Zoom ミーティングを中心とするハイブリッド形式としても差し支えない。

４．スケジュール

11/30 13:00～ 課題説明、各論点に関わるミニレクチャーとディスカッション１
柏市の政策のおさらい、翌週の現地見学の準備

12/７ 現地見学（いくつかの班に分かれての見学（徒歩・公共交通を利用））および現地講義）

12/14 グループ作業

12/21 13:00～ 各論点に関わるミニレクチャーとディスカッション２
グループ作業

１/11 時間未定（演習時間内） 中間発表会

１/18 適宜、グループ作業（大学入学共通テストのため、院生室やオンラインを利用。）

１/25 グループ作業

２/１ 適宜、グループ作業（修士論文審査のため、別の教室等で作業。）

２/８ 時間未定（演習時間内） 最終発表会

以上